

認知症カフェ 話すことで「つながる」

安心して過ごせる「地域の居場所」

お茶を飲みながらレクリエーションや情報交換、当事者同士の交流、専門職への相談などをおして、認知症への理解を互いに深める場。それが「認知症カフェ」です。

認知症カフェは、認知症に関わる全ての人々が、安心して過ごせる「地域の居場所」です。認知症の本人や家族のほか、地域住民、ボランティア、ケアをする専門職の方など、立場に関係なくだれでも参加でき、自分たちの思いを素直に語り合うことで、認知症への理解を深め、支援の輪を広げていくきっかけになります。



市内では、西部・東部・南部の3カ所設置されている「地域包括支援センター」で、この認知症カフェを定期的に開いています。自由に語り合うだけでなく、体操や脳トレ、レクリエーションをして交流を深めたり、認知症の病気や介護に関する相談などもすることができます。



時には皆で工作をしたり、お花見に出かけることも。認知症の本人や家族のリフレッシュの場として、日常生活の安定にもつながります。



認知症への理解を持った「地域の見守り人」

本人や家族が地域の中で安心して暮らせるよう、認知症への正しい理解を持った方が「認知症サポーター」です。市の講座を受講すればだれでもサポーターになることができます。認知症に理解のある地域を目指して、私たちに何ができるのか、市認知症施策推進協議会の川口委員長にお話を聞きました。

「認知症を正しく理解し、 その輪を広げてください」

結城市認知症施策推進協議会 委員長 川口 淳一さん
(結城病院 作業療法士)



「認知症になるともう治らない」というのは大きな誤解で、周囲の方々の接し方や関わり方によって、症状の出方や進行を緩やかにすることができます。また、認知症になってもできることはたくさんあって、それこそ『昔取った杵柄』で、過去に身に着けた技能や特技を発揮できることもあります。認知症を“特別扱い”するのではなく、同じ市民としていろいろな場面で活躍できるまちになるといいと思います。

認知症の方との接し方で大切なのは、『否定をしない』ことです。例えば、ご飯を食べたのに「まだ食べてない」という方には、「さっき

食べたでしょう」と否定するのではなく、「今作っているから待っててね」と言うと「おおそうか」と安心します。“自分が同じ立場で言われたらどう思うか”と、想像を膨らませることですね。人の行動には必ず理由があるのです。

認知症サポーター養成講座は団体でも受けられますので、窓口業務のある職場の方などはぜひ受講していただきたいです。

皆さんが地域の「見守り人」として、認知症の知識や理解の“輪”を周囲にどんどん広げていっていただければ、おのずと認知症に理解のある地域になっていくのではないのでしょうか。

地域の「見守り人」 認知症サポーターは

認知症カフェに参加してみたい方や認知症の相談をしたい方は

市地域包括支援センターへ

認知症をはじめ、高齢者に関することを何でも相談できる窓口です。「もしかして認知症?」「どのように対応したらいい?」など、困りごとがありましたら、気軽にご相談ください。



- ・東部（結城東中学校校区） たけだ
住所：結城市大字結城12741 電話：45-5501
- ・西部（結城中学校校区） ヒューマン・ハウス
住所：結城市大字結城10767-24 電話：45-8222
- ・南部（結城南中学校校区） 青嵐荘
住所：結城市大字七五三場210-1 電話：54-6477



毎年、小学5年生を対象に「認知症子どもサポーター」を開いています。座学だけでなく、認知症をテーマにした寸劇などで理解しやすい工夫しています。子どもたちも、地域の「見守り人」の大切な一員です。



認知症サポーター養成講座 を開催します

日 時	9月29日(木) 午前10時～午前11時30分
場 所	市役所1階 多目的スペース
定 員	10人 ※先着順
参 加 費	無料
申込期限	9月22日(木)
申込・問合先	市介護福祉課 地域ケア推進係 TEL 34-0324



詳しくは
ホームページへ